



美濃加茂 24景

 みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアム ☎28-1110

06 稲田のある風景

秋は果物や豆などさまざまな作物が実り、稲が収穫の時期を迎えます。

昭和30年代ごろまでは、刈った稲はからけて田んぼに立てたハザに掛け、半月ほど天日干しし、その後、脱穀して稲わらと粃に分けました。稲刈りの終わった田んぼでは、落穂拾いの手伝いをする子どもの姿がありました。

写真は、伊深町の水田が広がる地区のものです。山際にまちが形成され（写真中央から左）、その南側に田んぼが広がっています。昭和期の耕地整理が行われるまでは、古代の条里制の名残りと思われる地形や地名が残されてきました。現在はまっすぐに区画され、一面に広がる稲田にその姿がしのばれます。

伊深では江戸時代、村を流れる川浦川の水を田んぼにひくため、せきを造ったところ、下流の羽生村（現富加町）に十分な水が流れなくなり水争いをした記録が残っています。また、収穫がままならない年が続く、年貢に苦しんだ人たちが、旗本の江戸屋敷へ出向き直訴した歴史があります。

赤とんぼが稲穂に止まり、秋風に揺れる光景は、いつまでも残していきたい里山の原風景です。